

コンクリートポールの取扱説明書

●建柱作業	●足場ボルトの取付上の注意点
<p>①吊り込みは、吊りワイヤー以外に元口、末口部にひも掛けしてポールの動きをコントロールして行って下さい。</p> <p>②建柱する時はポールに衝撃を与えないようにゆっくりと掘削孔に降下させて下さい。</p> <p>③埋め戻し土は、ポール周囲に均等に入れ、締固めを行って下さい。一方向からの締固めによりポールの側面にひび割れが入る可能性があります。</p> <p>④根枷の取付および根巻きの施工時にポールに偏荷重が作用しないように処置して下さい。</p>	<p>①足場ボルトの取り付けは建柱後に行うこととし、建柱前には取り付けないで下さい。</p> <p>②足場ボルトは作業者が昇降に用いる以外、他の目的に使用しないで下さい。</p> <p>③足場ボルトのネジ部に異物およびネジ山不良がないことを確認して下さい。異物が付着している時は、完全に取り除いて下さい。また、足場ボルトのネジ山不良の時は、足場ボルトを交換して下さい。</p> <p>④足場ボルト受口のネジ部に砂、土、氷などの異物がないことを確認して下さい。異物が入っている時は、異物を完全に取り除いてネジ部をきれいにして下さい。異物が入ったまま、ボルトを締めますと下図のようなポールの内部の底抜けや、ポール表面の剥離を起こすことがあります。(氷を融かす目的で火を使うことはお止めください。)</p>
<p>●装柱・架線作業</p> <p>①装柱・架線などの作業は、装柱、交通事情、架線する周囲環境(看板、樹木など)を十分に把握し、安全上の対策を考慮した人員配置および作業計画を立て実施して下さい。</p> <p>②架線作業中の張力などにより、ポールに不平衡な荷重が作用することが想定される角度柱、引留柱などには支線、支柱、さらに仮支線なども設置してポールに不平衡な荷重が作用しないようにして下さい。</p> <p>③角度柱、引留柱などの不平衡張力が想定される場合は、架線張力と支線張力をバランスさせながら作業を進めて下さい。そのために、ポールの変位を監視して架線張力方向と支線張力方向のどちらにも傾斜せず、湾曲しないように指示して下さい。</p>	<p>⑤ネジ部(足場ボルト側、足場ボルト受口側ともに)にグリス、潤滑剤などを付けしないで下さい。</p> <p>⑥足場ボルトを取付する時は受口に合わせまず、手回しで2～3山以上嵌合させて下さい。</p> <p>⑦次に足場ボルトを頭部にスパナを合わせ、つば部が受口の表面に密着するまで締め付けて下さい。</p> <p>⑧締め付けトルクは40N・m以下として下さい。40N・mとは、20cmのスパナで200N(20kgf)の力で締めることに相当します。</p> <p>⑨締め付けを過度に行いますと、受口を反力にして受口のネジ部が壊れることがあります。また、ポール全体に損傷を与えることに繋がります。</p>
<p>●作業中にひび割れが発生した場合</p> <p>①架線の張力を緩め、架線と支線の張力バランスを保ちポールのひび割れ幅を測定して下さい。不平衡荷重を除去すればほとんどのひび割れは見えなくなりますので、その時点で不平衡荷重はほぼ除去されたと判断できます。</p> <p>②残留したひび割れ幅が0.05mm以内ならば、緊急性はありませんが、装柱時ひび割れとして記録に残して下さい。</p> <p>③残留ひび割れ幅が0.05mmを超えている場合は、過大な張力が作用したことが想定されるため、ポールの建て替えを検討して下さい。</p> <p>④架線作業中にコンクリートポールにひび割れが入ったことの報告は、より良い設備を維持するために正しい記録が必要です。例えば、10年経過後にポールのひび割れ幅が0.05mmで、このひび割れが初期のものと判断されれば、このポールの劣化はほとんど進行していない可能性があります。初期のひび割れでないとした場合には、劣化はそれなりに進行していると判断されます。ポールの取り替え時期を誤らないためにも正確な記録を残すことがポールを長期間安全に使用する基本となります。</p>	<p>⑩40N・mの締め付けトルクでもつば部が受口の表面に密着しない場合は、一度、足場ボルトを取り外し、受口を清掃するとともに足場ボルトを取り替えて下さい。</p> <p>⑪つば部が受口の表面に密着せずに途中で終えて作業者が体重を掛けますと、ネジ部が損傷し、落下事故に繋がりますのでやめて下さい。</p> <div data-bbox="1018 1585 1278 1756" data-label="Image"> </div> <p>図1 足場ボルトの締め過ぎによる剥離</p> <div data-bbox="963 1861 1278 2031" data-label="Image"> </div> <p>図2 足場ボルトの締め過ぎによる底抜け</p>

<p>●ポールの保管場所</p> <p>①コンクリートポールは長尺・重量物です。通行や施工上に支障がないように安全で安定した十分なスペースの保管場所が必要です。</p> <p>②保管場所は凹凸のない平坦な場所とし、下り斜面の近傍は避けて下さい。軟弱地盤の場合、敷鉄板を使用するなどの対処をお願いします。</p>	<p>●クレーン手配</p> <p>①当社製品の種別によっては、荷降のためのクレーン車が必要となりますのでクレーン車の準備をお願いします。クレーン容量は製品重量の3倍以上のものがが必要です。置き場がクレーンより離れている場合にはさらに大きな容量のクレーンが必要となります。</p>
<p>●ポールの吊り方</p> <p>①ポールの荷扱いは2名作業を基本とします。</p> <p>②ポールは長尺物ですので、ポールの重心位置を中心に2点吊りとし、2点吊りのワイヤー角度は60度以下として下さい。なお、ポールの実重心位置は重心表示から概ね±50cmの範囲にあります。</p> <p>③カラーポールなどのポールはワイヤーでの使用は避け、ナイロンスリングなどの傷が付きにくい材質のものを使用下さい。</p> <p>④荷揚げ用ワイヤー以外に元口部にひも掛けして、ポールの動きをコントロールして行って下さい。</p> <p>⑤ワイヤーは労働安全衛生規則に則して選定して下さい。また、吊り荷の下に入らない、吊り荷に乗らないなど荷扱いについては、それぞれの安全基準に従って荷卸しをお願いします。</p>	<p>●納入日の変更</p> <p>①現場などの都合で納入日に変更になる場合は納入日の前々日までにご連絡下さい。但し納入日が休日、祝日の前日、後日になる場合は3営業日前にお願いします。</p>
<p>●ポールの置き方</p> <p>①コンクリートポールはプレストレスが導入されていることからひび割れが入り難い構造になっています。しかし、<u>荷扱いおよび置き方が悪い場合にはひび割れが発生することがありますので慎重にお取り扱い下さい。</u></p> <p>②ポールの枕材は木製の角材などを使用して下さい。枕材は2点支持の場合、ポール両端の張り出しは全長の『$(1/5) \times L$』となるようにして下さい。(3点以上の支持が理想です。)</p> <p>③整地されていない場所でのポールの<u>段積みは損傷の原因になりますので避けて下さい。段積み</u><u>が避けられない場合は同じ品種のポールに限定して行って下さい。段積みは2段までとし、それ以上の場合は別途相談下さい。</u></p> <p>④ポールは円形ですので転がる危険があります。パッキンなどにより転がり防止処置をして下さい。</p>	<p>●返品について</p> <p>①お客様の都合による、納入当日の製品の返品についてはその費用、再搬入の費用のご負担をお願いします。</p>
<p>●ポールの保管方法</p> <p>①<u>ポール保管場所で先入れ、後出しにならないように先に納入したポールから使用して下さい。</u></p> <p>②コンクリートポールは長尺・重量物であり、衝撃などに強いものではありません。<u>極力荷扱い作業の回数が少なくなるように計画的に行ってください。</u></p>	